

# 都市再生整備計画

しおかわえきしゅうへんちく  
塩川駅周辺地区

(第1回変更)

ふくしま きたかた  
福島県 喜多方市

令和4年6月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

## 目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	福島県	市町村名	喜多方市	地区名	塩川駅周辺地区	面積	115 ha
-------	-----	------	------	-----	---------	----	--------

計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度
------	-------------------	------	-------------------

### 目標

大目標:舟運・宿場町として発展してきた「東側市街地」と区画整理により形成された比較的新しい「西側市街地」との多世代交流軸の形成により、楽しく歩いて暮らせる安全・便利なまちづくりを推進する

小目標①:楽しく歩いて暮らせる多世代交流軸の形成

小目標②:利便性が高く、多様な人々の交流・滞留が生まれる交通拠点の形成

小目標③:魅力的で安全性・利便性の高いまちづくり

### 目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 塩川町の中心市街地は南北に縦断する線路によって東西に分断された都市構造となっている。東西の連絡機能は踏切1箇所と立体交差道路2箇所のみであり、東西交流軸としては脆弱なものとなっている。また、塩川駅やその他の公共・商業・福祉施設等は線路東側に位置するが、線路西側からアクセスするためには上記連絡機能までの迂回が必要となり、線路西側の住民には各種施設が利用しづらい現状である。  
 塩川町においても市内の他地域と同様に人口が減少し、線路東側市街地では空き家が多く発生しているとともに郊外への大型店舗の進出等により、中心市街地のスポンジ化が進行している。  
 一方で、従来から駅中心のコンパクトな都市構造であること、喜多方市街地や会津若松市街地にアクセスしやすい立地であること、線路西側で土地区画整理事業による良好な宅地供給が可能なこと、会津縦貫北道路と塩川ICの整備効果により駅西側市街地への若い世代を中心とした居住者増加が続いていること、地域固有の歴史や文化及び自然などの魅力に溢れていることなど、塩川町には強みも多く存在する。  
 よって、下記事項を再編方針として設定し、整備を推進する。  
 ・東西の連絡機能の強化を図り、東西交流軸を形成することで市街地全域の活性化へ波及させる。  
 ・公共交通ネットワークとの結節点である塩川駅へのアクセス利便性を向上させ、公共サービスとの連携強化を図る。  
 ・多くの人々の交流・滞留を促すような賑わいのある駅前広場を整備することで地域社会・活力の活性化を図る。  
 ・都市機能及び居住誘導区域内への多様な都市機能及び公共施設誘導・整備とともに適切な居住の誘導を促進し、持続可能な都市構造の実現を目指す。

### まちづくりの経緯及び現況

・本市は、平成18年1月に旧喜多方市、旧熱塩加納村、旧塩川町、旧山都町及び旧高郷村の1市2町2村の合併により誕生した新市であり、平成31年4月に喜多方市立地適正化計画を策定し、都市機能の集約と居住の誘導による機能的な都市の実現、公共交通ネットワークの形成による利便性の高い都市の実現、公共施設の集約・複合化や効果的配置による持続可能な都市の実現を目指している。  
 ・本地区は、喜多方市の南部に位置する塩川町の中心市街地にあるJR磐越西線塩川駅を中心とする地区である。  
 ・これまでの目指すべき塩川駅周辺地区の整備内容に関する地域住民や関係機関との意見調整の結果を反映した整備計画を策定し、事業化を具体的に推進する段階にある。

### 課題

・線路で東西に分断された都市構造となっており、東西の連絡機能が不足している現状であるため、鉄道利用や線路東側の各種施設等が利用しづらい現状である。加えて、駅北側にある踏切が小学生の主要な通学路となっているが、幅員が狭いため危険な通学路となっている。よって、安全安心な東西連絡のための動線確保が必要である。  
 ・駅周辺の交通結節機能が不足している現状である。駅東口は、公共交通・自家用車の駐車・滞留スペース、歩行者の滞留・休憩スペースなどが不足しており、駅西口については駐車場は有るが改札口がないため長距離の迂回をしないと鉄道を利用できない状況である。よって駅周辺の交通結節機能を高め、人々の交流と滞留を生み出す空間の整備が必要である。

### 将来ビジョン(中長期)

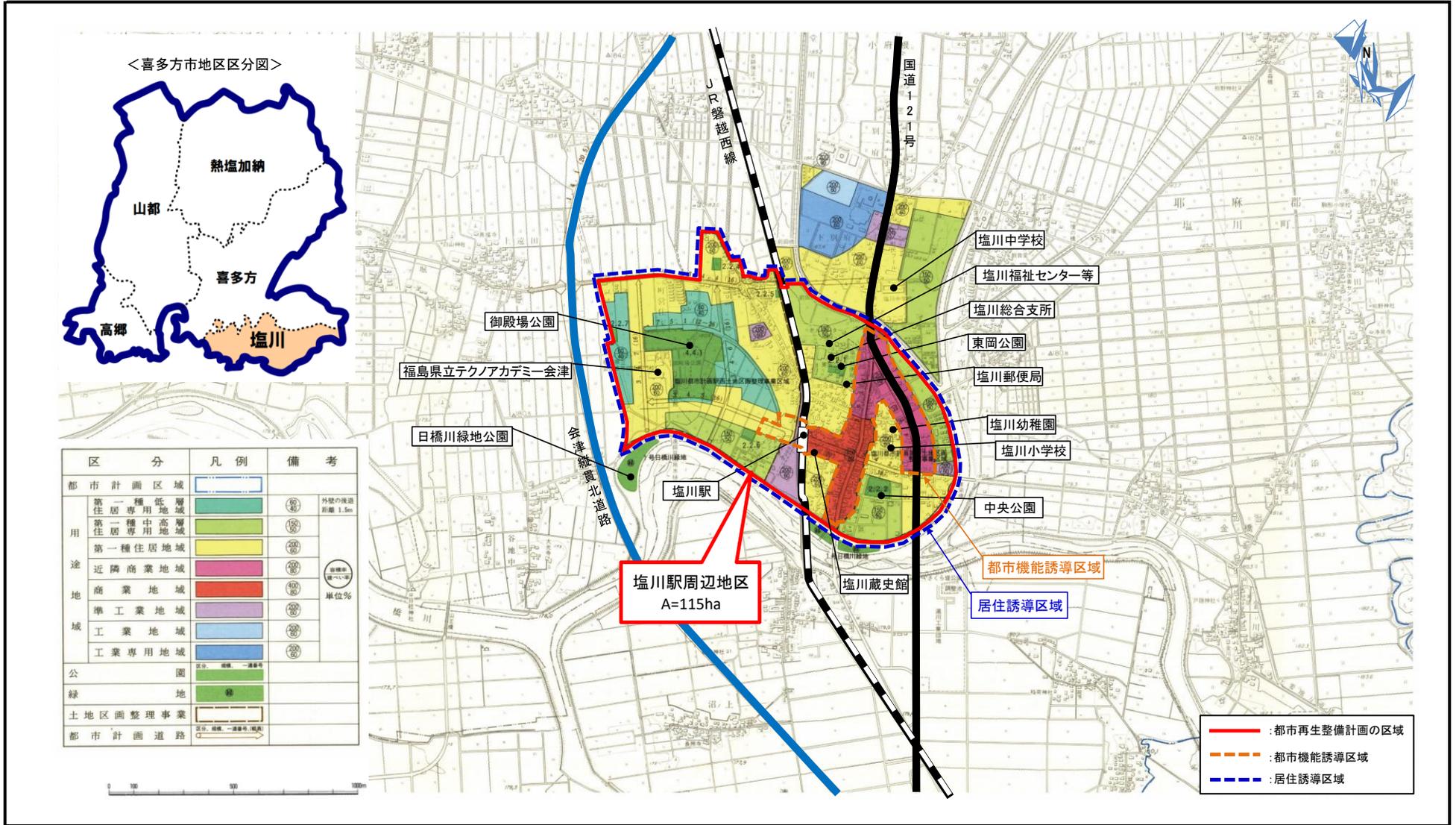
・喜多方市都市マスタープランの地域別構想では、「阿賀川、日橋川の流れ、豊かな田園環境とゆとりある住まいが調和した、川のまち」をテーマに、「喜多方の南の玄関口としての副次的な市街地の整備、充実」「舟運による商都として栄えてきた歴史と、豊かな河川環境を活かしたまちづくり」「喜多方中心市街地と会津若松市の中間に位置する地理的特性を活かし、定住できる生活基盤の整備促進」を目標としている。  
 ・平成31年4月には「喜多方市立地適正化計画」が策定され、多様な都市機能と居住の適切な誘導・整備と公共交通網との連携による「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指すとしており、塩川駅周辺地区においても、立地適正化計画を踏まえたまちづくりの展開が望まれる。



計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>①楽しく歩いて暮らせる多世代交流軸の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩川町の市街地中心に位置する塩川駅構内への東西自由通路の整備、自由通路用エレベーターや街路灯、音声案内板の設置等により、みんなが楽しく歩いて移動できる東西連絡機能の形成を図る。また、西側市街地に多い子育て世代と東側市街地の年配者との東西交流を活性化させる「多世代交流軸」の形成を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■塩川駅東西自由通路(基幹事業/道路)</li> <li>■自由通路用エレベーター(基幹事業/高質空間形成施設)</li> <li>■街路灯・音声案内板(基幹事業/高質空間形成施設)</li> </ul>
<p>②利便性が高く、多様な人々の交流・滞留が生まれる交通拠点の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東西駅前広場の一部整備、塩川ふれあい会館(塩川駅)の1階トイレ改築等により、居心地が良く多様な人々の交流と滞留が生まれる交通拠点の形成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■東口駅前広場(基幹事業/地域生活基盤施設)</li> <li>■西口駅前広場(基幹事業/地域生活基盤施設)</li> <li>■塩川ふれあい会館トイレのバリアフリー化改築(基幹事業/高質空間形成施設)</li> </ul>
<p>③魅力的で安全性・利便性の高いまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設置が望ましい箇所への防犯灯設置、持続的なまちづくりを検討するための事後評価の実施、住民参加のまちづくりワークショップの開催により、安全で魅力と活力のある市街地の形成と地域コミュニティの維持増進を推進する。</li> <li>・地域住民による空き家再生推進事業補助金等の活用を促進し、市街地に点在する低未利用地を利活用することで都市のスポンジ化の改善を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□防犯灯設置(提案事業/地域創造支援事業)</li> <li>□事後評価(提案事業/事業活用調査)</li> <li>□立地適正化推進事業(提案事業/事業活用調査)</li> <li>□まちづくりワークショップ(提案事業/まちづくり活動推進事業)</li> <li>○空き家再生推進事業補助金等(関連事業)</li> </ul>
<p>その他</p>	
<p>【都市防災のあり方の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年の頻発・激甚化する自然災害に対応した都市防災のあり方を位置付けるため、「喜多方市立地適正化計画(平成31年4月公表)」に防災指針を定める。</li> </ul>	



<p>塩川駅周辺地区(福島県喜多方市)</p>	<p>面積 115 ha</p>	<p>区域 御殿場一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、御殿場六丁目一部、諏訪町一丁目、二丁目、古戸城、下前田東丘、町北、身神、東栄町一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、東栄町六丁目の一部、遠田館ノ腰の一部、中町、清水岸一部、館ノ内、竹ノ花一部</p>
-------------------------	------------------	---



塩川駅周辺地区(福島県喜多方市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標 大目標:多世代交流軸の形成による 楽しく歩いて暮らせる安全・便利なまちづくり ①楽しく歩いて暮らせる多世代交流軸の形成 ②利便性が高く、多様な人々の交流・滞在が生まれる交通拠点の形成 ③魅力的で安全性・利便性の高いまちづくり	代表的な 指標	東西自由通路の歩行者数 (平日12h) (人/12h)	0	(R3年度) →	260	(R7年度)
		塩川駅までのアクセス状況 に関する満足度 ( % )	26	(H25年度) →	37	(R7年度)
		未利用宅地面積 ( m <sup>2</sup> )	102,905	(H29年度) →	90,200	(R7年度)

